

平成 15 年度 病虫害発生予察情報 速報 第 1 号

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）の発生状況について

1. 発生状況

- (1) 昨年（2003年）秋期のチャバネアオカメムシのフェロモントラップへの誘殺数は、例年に比べてきわめて少なかった（図1）。
- (2) 2004（平成16）年2月24日に広葉樹林の落葉中におけるチャバネアオカメムシ成虫の越冬個体数を都内4地点（各地点1 m² × 2～3か所、総計11 m²）で調査した結果、4地点のうち1地点（立川市）で確認され、1地点内（立川市）における平均個体数は、0.33 個体/m²、4地点の合計平均個体数は0.09個体/m²であった（表1）。

2. 発生予想

- (1) 以上の結果と気象庁発表の3か月予報（3～5月：平均気温は平年並みか高い）から、2003（平成16）年春期～夏期（4～7月）のチャバネアオカメムシ発生量はやや少ない～例年並と予想される。
- (2) 今後の発生については、予察情報に注意されたい。
- (3) 防除薬剤については、表2を参照されたい。

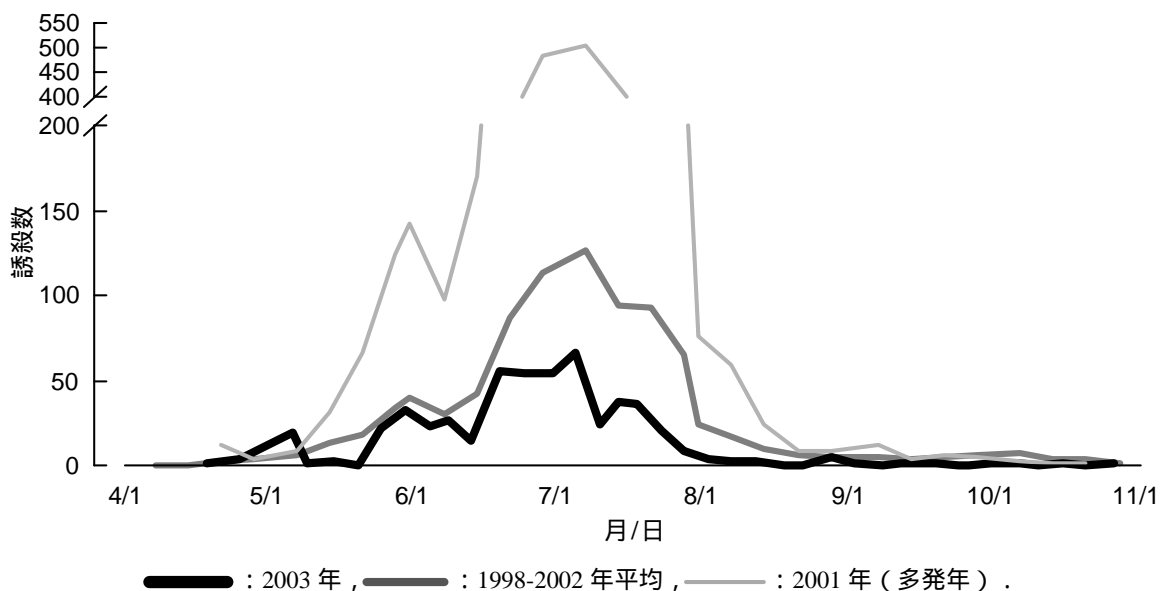


図1 チャバネアオカメムシフェロモントラップ誘殺数の推移（立川市）

表1 チャバネアオカメムシ越冬量調査結果(2004年2月24日採集, 3月2日調査)

調査地点	調査面積 (m ²)	採集個体数	地点内平均個体数 (個体/m ²)
稲城市坂浜-1	1	0	
稲城市坂浜-2	1	0	0
稲城市小田良-1	1	0	
稲城市小田良-2	1	0	
稲城市小田良-3	1	0	0
日野市三沢-1	1	0	
日野市三沢-2	1	0	
日野市三沢-3	1	0	0
立川市富士見町-1	1	0	
立川市富士見町-2	1	1	
立川市富士見町-3	1	0	0.33
全地点平均個体数 (個体/m ²)			0.09

表2 主な防除薬剤

薬剤名	薬剤の系統	使用回数	希釈倍率	ナシ	リンゴ
ア - デント水和剤 *	合成ピレスロイド	3	1000		
アグロスリン水和剤 *	合成ピレスロイド	3	1000-2000		
アディオン乳剤・707ブル *	合成ピレスロイド	2	2000		
ロディー水和剤 *	合成ピレスロイド	3	1000		
Mr. ジョーカー水和剤 *	有機ケイ素	2	2000		
スプラサイド水和剤	有機リン	2	1500		
スミチオン水和剤40	有機リン	6	800-1000		
スミチオン乳剤	有機リン	6	1000		
アドマイヤー顆粒水和剤	ネオニコチノイド	2	10000		
ベストガード水溶剤	ネオニコチノイド	3	1000		
アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド	3	2000	日本梨	
アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド	2	2000		
スタークル顆粒水溶剤	ネオニコチノイド	2	2000		
ノンマイト乳剤	IGR・合ピレ	1	1500		

* 印は桑園の近くで使用してはなりません。

.....

防除所ホームページ<http://www.jpnpn.ne.jp/tokyo>
 テレホンサービス042 (525) 8407
 今後の予察情報にご注意下さい。

E-mail アドレスS0200303@section.metro.tokyo.jp